

第1回上天草市まち・ひと・しごと創生推進会議（議事要旨）

1 日時 平成28年8月3日(木)午後3時00分～午後5時00分

2 場所 上天草市役所大矢野庁舎 書庫棟2階会議室

3 出席者 別紙のとおり

4 議事次第

- (1) 開会
- (2) 振り返り
- (3) 閉会

5 配布資料

- 資料1 上天草市まち・ひと・しごと創生推進会議設置要綱
- 資料2 会議の公開について
- 資料3 上天草市まち・ひと・しごと創生総合戦略（概要版）
- 資料4 上天草市人口ビジョン（概要版）

6 議事概要

(1) 開会

○事務局より、平成28年度の第1回会合を宣言。資料の確認。議事進行を座長に依頼。

(市長)

・地方創生は平成27年度から本格的な取り組みが始まり、今年度は2年目となる。5年計画の中で軌道修正を計りながら将来の目標に向かってまちづくりを進めているが、4月に熊本地震という大きな災害、その後の豪雨災害などによって多くの自治体が軌道修正、あるいは、一旦白紙に戻すといった事態が起こっている。上天草市においても、直接的な被害は県下の中では比較的少ない地域ではあったが、間接的な被害は観光や産業、一次産業の流通に大きな影響が出ており、地域経済に地震の影響が厳しくのしかかっている。様々な復興支援のプランを練りながら、少しずつ光明が見え始めている所があります。皆さんの努力のおかげで上天草が少しずつ前進していると思っています。地方創生は5年を1つのスパンとして考えていくものであり、今我々が出来ることを進めていくことが、上天草市の発展、熊本の復興につな

がるものと確信している。今後とも皆様のご意見をいただきながら、よりいい方向を目指して進めていただき。今年度は、8千万円という国庫予算の内示をいただいている。この額は県下の自治体の中で最も大きな額になります。これは上天草市の戦略を国が十分に認めていると、私は確信をしております。よりよい、目に見える形で市民の皆さんに示せるように、我々も努力していかないといけないと思っております。これからもご意見をいただきながら、来年、再来年に繋げていきたいと思っております。今日は時間が限られています、有意義な時間になりますようご協力をお願いします。

(座長)

- ・上天草市のまち・ひと・しごと創生推進会議は本年度で2年目になりますが、今日は簡単に1つの上天草市モデル、地方創生の絵ができています。僕が地方創生で一番大事だと思っていることは「挑戦」という言葉です。皆さんでワークショップをしながら、皆さんが語られたことを束ねていき、この会議の成果としてこの絵があります。あれから私が地方創生の話をするときに必ずこの絵を出します。上天草市はこの絵の中に市長が入っていると宣伝して、すごい好感を得ました。地方創生で有名な海士町にもこれを持って行って、海士町もこういうことをやりたいと仰っていただきました。
- ・海士町では「あさまの会」という会があり、半官半民の20人で構成され、また、1ターンの方が10名、地元の方が10名となっています。町の将来を描くときに役場の人だけじゃない、市民だけじゃないという場が生まれるのが大事だと思っています。僕も熊本地震で被災しました。県内でも色々な被害が出ていますが、今こそ上天草市でできることをやっていくことが大事であり、しんどい中にもやるべきことや楽しいことがある。みんなで考えながらやっていきたいと思っております。僕は司会に徹しますので、皆さんの積極的な発言をお願いします。

(事務局)

- ・市長は別の公務の為、退室します。

(座長)

- ・今から議事にいきたいと思っておりますが、会を始める前にこのメンバーで1年間会議をやっていきますので、チェックインをやりませう。なぜ自分がこの会に参加しているのかを、自己紹介をしながら、会議の中でこういうことをやりたい、皆さんの仕事が地方創生にどう関わってきているなど、一言で結構なのでお願いしたい。

※出席者の自己紹介は省略

(座長)

- ・ありがとうございました。この絵ですが、構成員の皆さんに説明できるようになっていただきたいです。昨年おられた方は多分説明できると思います。1つはグルグル回っているというのがポイントです。真ん中には「上天草市に行きたくなる」、「上天草で生きたくなる」というキャッチフレーズが入っています。自分らしくというのが書いてありますが、地方創生というのは都会から地方と呼ばれる所に人がまず来るというのが大事です。移住・定住、若者の雇用、子どもの減少などの話がありますが、安心して子どもが産める、子育てができる環境をつくっていくなど、これから新しい故郷というのが大事です。
- ・2週間前に海士町にいましたが、海士町で吉岐島前高校の魅力化を研究しており、まさに今の子ども達が上天草に帰って来るのかということが、ポイントだと思います。子育て世代が「上天草いい所だよ」、「一回は出ると思うけど、帰って来てくださいね」と言えるかどうかポイントです。ひと仕事終えて、子育ても終えて、あとは夫婦で二人だから好きな所の上天草に戻ろうという。そうではなくて、例えば「結婚したから上天草に帰る」とかですね、「子どもが生まれたから上天草に帰ってこよう」とか。
- ・海士町の人達が本気だなというのは、高校があるんですけど、その高校を卒業したら、一旦必ず町を出ます。出て戻ってくる。そういう人たちと故郷をつくっていく。上天草市はどうですかね。子どもや兄弟に、ずっとここにいてくれよと言えるか、または皆さんが思えるか。そういうことをまさに皆さんと話していく。今から1年間誰がこの絵をしゃべるかよく分かりません。ここにいる人は意識の高い人だということは十分解っています。皆さんが無関心な人とか、上天草なんてそのうち人もいなくなるし、高校もいつまで存続するかわからないなど、そういう風になるとまとまっていけないんです。先程教頭先生が、熊本県立だけど上天草市立だという心意気で、僕はすごくありがたい教頭先生だなと思ってですね。まさに上天草に上天草高校があるというのはすごく大事なことで、高校がどういう人材を育てるか、就職の話をしているという話ですが、ぜひ熊本大学にも来ていただきたい。必ず熊本に帰る人材として戻したいと思っています。彼らが、上天草という新しい故郷を選べるような地方創生をやっていかないといけないと思っています。
- ・今日は県から上野さんが来ておられるので、検証もしますが、僕は評価とか得意じゃなくて、今回忙しいのに無理を言って7つの課の方に来ていただいています。今日はお悩み相談会といった感じでやっていただけたらなと思います。3分ぐらいで結構ですので、この事業をやって故郷とか地方創生に1番よかったと思うアピールポイントと、上手くいかないというお困りのポイント、この2つをご説明いただきたいと思います。昨年、堀江市長から言っ

ていただいた最大にありがたい言葉は「挑戦していいよ」です。怖いから失敗しませんというのもあるのかもしれないけども、どんどんやっていくことが僕は大事だと思うんです。やって失敗して次のときにそれをやらなくすればいいだけの話なので、そのための大切な7つの事業なので、昨年まだ、先も分からないような中で取り組んでいただいたことだけで、僕は感謝しています。総務課の方からよろしくお願いします。

※【資料5】避難所等整備事業費補助事業について、総務課山下課長が説明。

(座長)

- ・1番やって良かったことはなんですか。

(総務課 山下課長)

- ・自分達がやらなきゃいけない。自助・共助、ここの所で意識が出てきたという所でございます。

(座長)

- ・すごいいいことばかりが書いてあってなんか、困っているとかもうちょっとこうやったらいいのになということは何ですか。

(総務課 山下課長)

- ・自主防災組織が設立されても、名前だけで活動が伴ってないという地域もございます。それは今回の地震においてもあまり、揺れは経験したけど、それはその時限り、そのあとがない。その後、大雨で本市においては亡くなった方も出ているのですが、崖崩れにも縁がない。浸水にも縁がないといった、自分達が経験されてない部分に関しては結構意識が薄いというのがありますので、そういうところをどうするか、これからまた台風シーズンとなると、警戒しないといけないところが違ってきますので、そういうところに我々がどう絡んでいって自助・共助・公助この3つの組み合わせをどうやってしていくのかというのが課題というか、1番の悩ましいところだなと考えております。

(座長)

- ・もうそれに対して、今年は何をしようとか話されているんですか。

(総務課 山下課長)

- ・とにかく地道に防災管理委員とうちの危機管理職員の方で各地区を周ったり、区長との意見交換を継続的にさせていただいています。

(座長)

- ・今総務課の皆さんから、今回の熊本地震で公民館の被害がでたとのことですが、公民館は行政の持ち物じゃないので、それを復活させる補助金がなかなか出せないというのがあって、それを自主防災組織とセットで挙げていくというのは非常に有益な事業なんじゃないかなと。やってよかったということ

は、自分たちでやらなきゃという意識ですね。これは本当に自助・共助・公助の中ですごく大事なことなので、まさに行政がやるべきことだと思います。一方で、自主防災組織が名前だけになるとかそれに対して、研究してないことは解らないということがあると思います、僕が熊本市内で見て思うのは、相互の交流ですね。行政からいくら言ってもなかなか市民の方はよく理解していただけない。やってもらえるんだらうと思っっている方もおられるので、住民同士、あそこの地区は出来て、なんでこっちの地区は出来てないんだらうと、横で比べてもらうていうのがすごく大事で、成功しているところと話して自慢してもらって、それを地域の住民に聞いてもらうとかですね。地道に防災の意識を上げていくことも大事だと思うんですけど、隣を見てもらうていうのがすごく大事なんじゃないかと思いました。他どうですか。ご質問とか、よろしくをお願いします。

(セカンドネット支援ワーク 木下会長)

- ・30人の自主防災組織に補助したところですね。というのは各区長さんがおられるのが177人か178人だったんですけど、私は本震のときに、津波が怖くて山に登ろうとしました。だけど、その山に登っても部屋がないんですね。だからその辺りのことを考えさせられました。

(座長)

- ・熊本市内もそうですが、自主防災だけやる組織ってなかなかつまらないので、お祭りをしたり子供達と一緒に遊ぶとかっていうのと併設したりとか、たまに炊き出しがあったり、いろんなレクレーションとかそういったものと組み合わせ、移住・定住の話もあるのかもかもしれません。単に目的の組織というのはしんどいので、その点を考えていただければ。結構上天草はそういうのがあっていのではないですかね。消防団と一緒に動いているとか、自主防災組織だけで動いているのとかって少ないと思いますけど、どうですかね。

(総務課 山下課長)

- ・地区によって違うと思います。自主防災組織＝消防団みたいなところもあるしですね。さっき先生がおっしゃったような防災活動だけでなく、防災の勉強会みたいなのをされている地区もございます。そういうのを取り組みとして紹介していこうと考えております。木下委員からありましたけど、実際1つの地区で防災組織もありますし、6行政区ぐらいでまた1つの自主防災組織をされているところもございます。今行政区でいうと本市の中の170いくつ行政区がありますが、自主防災を設置されていないのが、4行政区だけで、ある一定の目途がついてきました。とにかく活動を、今皆さんの関心のあるうちにやっっていこうと。毎年する必要もないですが、そこを忘れないようにやっっていこうというのが、我々の課題というか、考えているところで

す。

(座長)

- ・もう組織率の方は十分なので、今度実験的にそういうのを挙げていこうということですね。底上げというかみんながやっていくのが大事だと思いますので、横のつながりを強くしてもらうのがいいのかなと思います。じゃあ、次の事業、移住促進事業についてお願いします。

※【資料5】移住促進事業について、企画政策課米田参事が説明。

(座長)

- ・やって良かったことは。

(企画政策課 米田参事)

- ・単純に都市部を含め、29名の方に移住していただいたこと。その方たちの多くが自分の地区に入って、いろんな地区の活動等にも積極的に参加をされていますので、そういった面で地区の活性化とか、新しい価値観を持ってきたり、そういった面でもよかったのかなと思っています。

(座長)

- ・上手いこといってないとか、相談したいことは。

(企画政策課 米田参事)

- ・昨年度29人の方を受け入れることができたが、どうしても若い世代、子育て世代というのが1組ぐらいしかいらっしやなくて、ほとんど50代以上50~60代のお仕事を辞められた方、もしくはもうリタイヤされる方が中心になってきていますので、今後、地方創生で、人口減少を緩和する、人口を増やす、子どもを増やす意味では、子育て世代の方をどうにかして受け入れる。移住施策だけでは難しいと思いますけど、他の子育て政策とか雇用とか、たくさんそういう課題がありますので、そこは1つ大きな課題かなあと考えております。

(座長)

- ・1組は来てくださっているんですね。

(企画政策課 米田参事)

- ・東京から若い世代の方に来ていただきました。

(座長)

- ・ちなみにその方はどんなことされているんですか。

(企画政策課 米田さん)

- ・こっちに来られて、御主人は福祉関係の仕事に就かれています。子どもはまだ小さくて保育園児です。

(座長)

- ・担当者で、子育て世代が移住しない理由を分析されたりしてますか。

(企画政策課 米田さん)

- ・相談自体はありますが、仕事を探すうえで難しいとかですね。1番は雇用の部分でためらう方。住む場所はどうか妥協して住めるところはたくさんありますので、仕事の面で相談される方が1番多いです。

(座長)

- ・こういう情報はすごく助かります。31年の目標は25名。

(企画政策課 中村課長)

- ・そこは一点修正させてください。今お手元にある資料には31年度の目標は105となっておりますが、これは5年間の累計で105名を目指すということです。それが初年度の27年度に29人を達成しているということで訂正させていただきます。

(企画政策課 米田参事)

- ・平成31年度には5年間の合計で105名を移住させるとなっております。

(座長)

- ・目標ちょっと厳しめ。移住してもらうのは結構簡単だが、その方たちがどれだけフォロワーとして、人を引っ張って来てもらえるかとか、あとは住んで良かったという情報を発信してもらったりとかして、少なくとも何年かいてもらわないと、1年だけ移住して実績だけ上げて、どっか他のところに移住しちゃうとまずいですよね。そういうことに関してまた女子会の実施について話をされたと思うんです。熊日でちらっとアドバイザーの方たちがやっている仕事を見させていただいたのですが、そういうアフターフォローとかはどうされているのですか。

(企画政策課 米田参事)

- ・相談アドバイザーがいますので、困りごとがあった際は話を受けて、担当が確認したり、移住者交流会を開いて移住者同士で交流をしてもらうということで取り組んでいるところです。

(座長)

- ・今年は特にこういうところ頑張ろうとかありますか。

(企画政策課 米田参事)

- ・今年は移住促進事業にまた更に力を入れておりまして、上天草市の知名度向上、空き家バンクの創設、移住体験ツアー等を実施し、人を呼び込むとか、まず上天草を知ってもらう。そして、物件等も充実させる、という形で今年も力を入れる。また、都市部で移住相談会があります。その参加回数も増やして、やはり生の声を聞くというのが1番移住希望者の方が求めてらっしゃることなので、そういったことを取り組むようにしております。

(座長)

・雇用の問題は どうしますか。

(企画政策課 米田参事)

・雇用の問題は、まだそこにつながるようなものは見つかってないのが現状です。企画政策課の中だけでは難しいところです。

(座長)

・例えば市内でどこか一緒にやるとか。例えば1人の方が福祉関係に従事しているのであれば、そこにもう1人(移住して)来ないのかなとか、そういう風に新しい仕事を発掘するとか、もちろん企画の中では難しいと思うが、他の福祉課関係者と相談してみるとかはないのか。

(企画政策課 米田参事)

・そこはぜひさせていただいて、市内いろんなとこと連携が必要だと思います。

(座長)

・今上天草市で1番若い人が働けそうな場所ってどこですか。一次産業でもいいですが。

(産業雇用創出課 岡元補佐)

・先程上天草高校の教頭先生からお話があったように、昨日企業合同面談会というのを開催しまして、上天草高校から40名程度参加いただきました。一般の方から20名程度参加していただいていますので、そういった場を活用するようなことも考えられるのかなと思います。

(座長)

・それいいですね。ぜひ高校生に交じって移住者の方も見に行ってもらって、こういう仕事があるよという。多分都会から来られる方ってイメージが強くて農業やりたいとか漁業やりたいとかそういうのがあると思いますが、結構新しい船乗りさんになるとか、そういったことも上天草なら可能ですよ、みたいなそういうのもあるといいですね。すばらしいアイデアです。高校生と一緒に移住者が動くのはありかもですね。今度産業雇用創出課さんの方から。

※【資料5】農林水産物等販売促進事業及びブラッシュアップ商品販路拡大事業について、産業雇用創出課岡元補佐が説明。

(座長)

・最後が1番素敵だなと思いました。国の思惑かもしれないですけど、前から天草は1つがいいと思っていて、行政では別かもしれないですが、産業の面では軽々乗り越えて行き、連携してもらうのはいいこと。逆に懸念するのは、今後設備投資をしていって人件費を削除となると、地方創生の事業なので、雇用が減らされたり、機械化になり、人に仕事が無くなってしまったりすると、本末転倒なのかなと思う。人に喜ばれる産業を創出しないと、地方創生

という分野で、この企業があって良かったなとか、これを特産品にして良かったなというのが増えない。いくら儲かっても意味がない。この辺の話はあとで、片島さんに説明してもらいます。官民連携や地域間連携、行政の方も民間の方が何を悩んでおられるのか、後継者不足やお金がないことはないが、この先これがどれだけ続くのか分からないというのは、民間の皆さんの思いだと思う。それをシェアし、逆に行政の方も少ない人数で国の補助金を活用していることを民間の人に知ってもらおうというのはすごく大事だなと。独自化とかブランド化とかはちょっと分からないので、片島さん何かアドバイスはないですか。

(片島荷風デザイナー)

- ・消費者あってのものづくりですので、どの時点においても消費者の視点が必要だというところがあります。上天草市でやるのであれば、上天草らしさというブランドづくりが入る。そうすると消費者に届くスタイルを一貫したトーン、雰囲気調整したマーケティング視点を入れていくといい形で28年度以降が確立されたものとなると思う。

(座長)

- ・相談ですが、6次化で民間主導が目標ですよね。これは具体的に何がどうなったら民間主導なのですか。元々行政にいた人が、民間事業者になったら、民間主導になるのか、どういうイメージですか。

(産業雇用創出課 岡元補佐)

- ・今、加工品開発センターというところを利用して、市の委託を受けてブランド推進協議会というところが、商品開発を行っている。ブランド推進協議会で商品開発を主として行わず、開発を民間事業者さんの方に移行しつつ、販売先の方を重点的に支援していければと考えております。

(座長)

- ・北垣さんのところは、自分のところでブランドとか作っていますか。

(北垣水産 北垣氏)

- ・自分のところも加工センターを利用して、ブランド推進課で一昨年、ギョコラを事業者さんに作ってみませんかと言われ、昨年度からやり始めた。

(座長)

- ・民間の方として行政の人と一緒に仕事して学ぶことたくさんあったと思うんですが、じゃあ、このギョコラを次からやると言われると難しいですか。

(北垣水産 北垣氏)

- ・そのときはレシピの提供だけだったが、そのあとのブラッシュアップ商品の拡大事業で、引き続きギョコラの改良と、販路の広げ方をブラッシュアップして、勉強していくと次から出来るのかなと思います。

(座長)

・北垣さんみたいなところが増えていけば、この民間主導になり得る。

(北垣水産 北垣氏)

・そうですね。いいモデルになればと。

(座長)

・どうやって仲間を増やしていきますか。

(北垣水産 北垣氏)

・こういう風に、会議に来られている事業者さん達が決まった事業者さん達ばかりなので、もっと他の、例えば農家の方など、もっと広げたいと思います。

(座長)

・北垣さん結構お若いですが、自分達と同じ年代がもっと増えてほしいなと思いますか。

(北垣水産 北垣氏)

・微妙な。もっと若い人が増えてほしい。

(座長)

・おられるのですかね。上天草市に起業、創業、継業とかって。もっと若い人にブランド推進協議会に入るといのは考えておられますか。

(産業雇用創出課 岡本さん)

・企業の関係というのが先ほどの天草信用金庫さんからお話があったような形で、企業、創業支援ネットワークというのを平成28年から起ち上げて、企業、創業に対する支援を行っているところはある。

(座長)

・どれくらいの成果があるのか。

(産業雇用創出課 岡元補佐)

・ネットワークの事業としまして、創業支援塾というのを開催する形にしており、商工会を中心に展開しているが、8月1日に特定創業支援塾というのが開催され事項が5件か6件程度あったと報告を受けております。

(座長)

・上天草で起業しやすい雰囲気とかってどうですか。実感として。若い人が仕事しようと思ったときできそうな雰囲気ですか。

(産業雇用創出課 岡元補佐)

・こういうような場をつくりだすような形で、企業、創業ができるような形を作っていますので、それを活用いただきたい。市だけでなく信用金庫さんや商工会の意見を踏まえながら、そういう環境づくりは必要と思う。

(座長)

・せっかくなので、銀行の方。今の話で起業の相談は銀行にあると思うんです

ね。

(天草信用金庫大矢野支店 太田支店長)

- ・創業自体、私どもが取り扱っているのが2・3件ぐらい。個人的には、全ての業種で何かを始めるので、金融機関や商工会が創業の相談に乗る形ではなく、できるなら、上天草市自体がどういった業種の創業支援を積極的に取り組むかを知りたい。いろいろな面で協力するので、例えばトマトの栽培農業とか、養殖業、こういう部分を創業しませんかというような提示をするような形であればもっと創業者が増えるんじゃないかと思う。

(座長)

- ・先程の南国サーモンの話で、この前、長島町に行って、そこはブリの養殖が盛んで、東町漁業がすごいです。若者の目が輝いてて、大学卒業するような子が生き生き働いている。彼らはプライドを持っていて、日本の80%ぐらいのブリを養殖している。浜田さんは元々養殖やろうと思ったきっかけは。

(株式会社マルマサ浜田鮮魚 濱田取締役)

- ・元々父親がやっていてそれを引き継いだ。新しい魚種を加えて行こうということで、以前はトラフグをメインでやっていた。今は九州ではないというのを作ったらある程度うまい具合に行き、ここ2年出荷ができています。新しく完全養殖サバをやっているが、サバはよく当たったりするが、完全養殖の場合全くないので、しめサバにせずとも刺身で食べても当たらないと押していける。なぜ鹿児島に元気があるのかということ、県が相当補助をして東町養殖団地として、県の一大産業として、バックアップをやっている。若い人達が安心して働ける環境をつくってあげるというサポートが大きい。こちらは補助が全くなく、自分のセンスで働きながら、生産している。いいところは残って、悪いところは淘汰されていくような状況となっている。

(座長)

- ・荷風さんが言われた上天草らしいということ。お金は単に儲けるだけなら、どこかの子会社や、どこかの二番煎じをやればいいが、地方創生の産業というのは上天草らしいということが大事だから、海が大事、今の濱田さんの話は自身のこだわり、今まで誰もやらなかったことをやってみようというのが大事で、本当は県の補助金があったらいいが、浜田さんはたまたまやってきた。若い世代で起業して、もちろん協議会とかでもいいんですけど、そんな感じで進めて行けるといいのかなと。次の事業ですね。

※【資料5】観光振興事業について、観光おもてなし課山川係長が説明。

(座長)

- ・よく分かったのですが、入込み客数以外でKPIは考えられないですか。

(観光おもてなし課 山川係長)

- ・宿泊客も考えられるが、正確な数字を把握するのが非常に困難で、いろんなKPIを考えたんですけど、ある程度精度の高い数値で、かつ毎年調査方法にブレがなく、同じような数値となるのはこの2つかなと思っています。

(座長)

- ・以前、ある企業の方と話したときは、例えば旅館業を営んでいる人やレストランを営んでいる方の数が、いかに上天草市が潤っているのかというのを指標化しやすいんじゃないかというアドバイスをもらっていたが、どうですか。

(観光おもてなし課 山川係長)

- ・把握の仕方が今自分の中で出てこないが、こういった風に把握すればいいのかというのが正直な気持ちです。

(座長)

- ・お店の数を数える。

(企画政策課 中村課長)

- ・例えば国が出している経済指標、景気動向調査を定期的に3か月毎に1回している。これは主要企業さん100社を選び、そこで景気が良くなったか、儲かったか、儲かってないか、プラス・マイナスで指標を出すというのがあります。そういうやり方だったら出来るのではないかと。要は、まず枠を決めてその中で儲かったか、儲かってないかというのを同じ問いかけで問うというのをやるというやり方はあると思います。

(観光おもてなし課 山川係長)

- ・そういったことが把握できればいいことだと思います。

(座長)

- ・逆に僕は熊本市内の人達から見て上天草の観光はどうなっているかアンケート調査をしてもいいかなと。せっかくここまでエッジを超えた取り組みをされているので。もちろん入込み客数も大事なのですが、今後は自分たちの売り込みですね。若年層に受けているとか、女性陣から支持されているよとかって、皆さんの武器になると思うので、そうしたバックアップデータみたいなところがあるといいんじゃないかと思っています。

(観光おもてなし課 山川係長)

- ・やることに一生懸命だったので、そこまで考える余裕がなかったというのは正直なところですよ。

(座長)

- ・いろんなチャレンジをされているので、ぜひ成功だったよということを示すデータについて考えてもらうといいのかな。

※【資料5】物産展示販売会及び商談会事業について、観光おもてなし課宮崎

補佐が説明。

(座長)

・通常商談会をやるというのは、行政はどこになるんですか。

(観光おもてなし課 宮崎補佐)

・産業雇用創出課です。

(座長)

・普通は観光協会がやるのですか。寺中さんがやってもいいのでは。マッチングの場ですよ。今のは上天草のアピールになっているんですけど、商談をする人はそこに来るかということ、そういう場になってないということなので、例えばその場で、婚活みたいなやつをここでやると、上天草の一次生産者と都会の女子みたいなので上手いこと言ったりするそういう場にはなりそうな気がするんですけど、商談のマッチングをこういうところにするのがいいのかどうかという、相談を事前に産業雇用促進課さんとしとけばよかったのかなと。

(観光おもてなし課 宮崎補佐)

・事業者をリストアップして案内状を送付させていただいたんですが、なかなか来ていただくまでに至らなかった。

(座長)

・こういう場は大事。地方創生でやっているの、出ていくということ、来てもらうというの、その両方だから、今度は熊本市内の業者さんにおいしいもの食べられますよと言って、来てもらうのも大事と思いました。そのセットでやるのはどうですか。改善案はありますか。

(観光おもてなし課 宮崎補佐)

・今年の1月に開催を予定していますが、その点を含め改善していきたい。

(座長)

・そのとき逆に、熊本の人と相談することは良いのでは。向こうは今年被災したので、花畑広場は防災拠点の機能を戻せないかという話になっている。交友広場的な活用を考えられていると思うので、ぜひ話してもらいたいかなと思う。最後、湯島お願いします。

※【資料5】湯島・樋合島体験型観光拠点整備事業について、観光おもてなし課松下主幹が説明。

(座長)

・この非常勤職員は地域起こし協力隊みたいなの方ですか。

(農林水産課 松下主幹)

・この事業費を使って臨時職員を雇用しています。この賃金をこの事業費に充てている。

(座長)

・そもそもなんですが、なぜ湯島と樋合島でやるのか。

(農林水産課 松下主幹)

・島という環境が特徴的であることと、農業も漁業も非常に盛んであるということ。来たお客さんが片方でなく、農業、漁業も両方同時に体験できるという環境が整っているというところで、この2つの場所を設定しています。

(座長)

・おそらく、やってすぐに成果が出る事業じゃないので、すごく大変だと思いますが、5年後のゴールは決められていますか。

(農林水産課 松下主幹)

・基本的には地元の皆さんで、受け入れて実施して、お客さんに喜んでもらって、それ相応の収入も上げていただく。自立して事業をしていただくのが目標です。

(座長)

・それ結構高いですね。僕らがチームに入るときに最終的には僕らがいなくてもとよく言うんですけど、それは難しい。

(農林水産課 松下主幹)

・受け皿に関しては専任の職員さんを置いたりしないといけないので、そこは観光協会さんにぜひやっていただきたい。

(座長)

・すごくおもしろそうですし、実際やっておられるのであれば、さっきも市長が話しておられた地域おこし協力隊とか、田舎で働き隊など。さきほどおっしゃっていたように、地元がやりたいかどうか。湯島は本当に素敵なところだから、可能性はあると思いますし、湯島は湯島でしかないの、湯島大根や鯛とかをどうやって使っているのか、そういうのは地元の方と話すしかないの、よく話すことが大事なかなと思います。大事な事業だと思うので、やれることを順番にやってもらったらいいのかなと思います。こういうのが観光とかとはどうなのですか。

(観光おもてなし課 山川係長)

・当然、湯島はうちとしても、魅力あるエリアと思って、情報発信やJRを巻き込んだ体験型イベントとか実施はしております。

(座長)

・いいチームとかできたらいい。上天草の役所の中と観光協会さんと地元の若者とか。僕の知り合いが、湯島出身で、今五島の宇久島で地域おこし協力隊をやっているの、活用していただけたらいいと思う。なかなか議論できませんでしたが、皆さんどうでしたか。矢田さん。

(株式会社熊本銀行大矢野支店 矢田支店長)

- ・チャレンジされていらっしゃるなど感じました。今までした中でできなかった部分は、修正していかないといけない。まず粘り強くやれば、結果が付いてくると感じました。

(座長)

- ・せっかくなので、上野さんも感想を。

(上野オブザーバー)

- ・私どもは、どうしても現場の方と接する機会が少ないので、今回の検証という形で挙げていただいたものも、紙で事前に把握はさせていただいておりましたので、あらかじめは見せていただいたんですけど、実際お話あった通り公金を取るというのは本当にパワーがいるというのは重々承知しております。その中で公金を取ってそれを次々に消化していかなければならないというところで非常に職員の方がご苦労されているということも実際解りました。お話を聞いている中で、急に出てきた事業にKPIの設定とかが非常に難しいというのを感じました。今、地方創生の流れというのは、PDCAという形でプランを作って、それを実際やって、チェックしていきながら、上手いかないものは更にそこで深掘して、常に回していくことが必要なのかなと感じました。

(座長)

- ・この会議はいつもすごい楽しみにしていますが、皆さん前向きにやっただいています。今日も7事例話していただいたが、3つぐらい担当課と違う課に意見を聞かせてもらって、総合行政という面ではすごくできていると思う。上天草市役所の皆さん協力的で本当感謝しています。ただ、ここに来られているのは意識の高い方だけなので、僕としては、以後、今年度の委員会ではできれば、半分ぐらいは市民の皆さんの意見を聞きたいと思っています。なので、いつも大矢野でやるのではなく、たまに松島でやったりとか、他のところでもやって、委員会もやるが、半分ぐらいは地元の方入れて、民間とやっていかないといけないことも沢山あると思うので、地元のお母さん達に来てもらうとか、場合によっては高校生に来てもらったり、そういうことができたらいいなと思っています。まだ、事務局と相談しますが、年3回か4回ぐらい会議をやりませんが、これからは1時間ぐらいワークショップというか、地元の人達を交えた議論をしたいと思っていますので、きっと皆さんの職場の近くも回れると思いますので、そのときにはご協力いただきたい。時間は守りたいと思いますので、もし事務局の方から何かあればお願いします。今日はありがとうございました。

(事務局)

- ・個別に入ってもらおうというよりも、会議に入ってもらおうという事で、我々担当課としてはA、B、Cなど評価をしています、会議としての評価をしていただければと。

(座長)

- ・今日はいろいろ聞いて、感想等もあると思います。僕から言うと皆さんすばらしいなど。委員長としては委員の皆さんの評価を信じたいと思います。大事なのは改善案だと思う。委員の皆さんは委員長一任でいいと思うんですが、ぜひ担当課の皆さんにおはかりして欲しいとか、もっとアイデアが欲しいとかっていうのがあれば、事務局に届けていただいて、後日僕の方から回答します。終わります。ありがとうございました。

(3) 閉会

(事務局)

- ・本日の議題は全て終了しました。次回は10月以降の予定になります。

第1回上天草市まち・ひと・しごと創生推進会議 出席状況

区分	所属等	氏名	会議
産	一般社団法人天草四郎観光協会 事務局長	杉本 健一	○
	あまくさ農業協同組合大矢野統括支所 指導販売課長	宮内 勝幸	○
	株式会社マルマサ浜田鮮魚 取締役	濱田 真和	○
	北垣水産	北垣 洋	○
	株式会社隆勢 代表取締役	岩崎 敏治	○
官	総務企画部総務課 参事	泉田 利博	○
	総務企画部監理課 係長	瀬脇 和弘	○
	経済振興部産業雇用創出課 課長補佐	岡元 宏洋	○
	経済振興部観光おもてなし課 参事	入口 絢光	○
	健康福祉部福祉課 主事	瀬内 雄大	○
	健康福祉部健康づくり推進課 参事	寺 美有希	○
	教育委員会事務局教育部学務課 主事	小山 貴良	○
	教育委員会事務局教育部社会教育課 係長	篠田 良	○
学	熊本大学政策創造研究教育センター 准教授	田中 尚人	○
	熊本県立上天草高等学校 教頭	後迫 泉	○
金	株式会社肥後銀行大矢野支店 支店長	岩原 慎一郎	○
	株式会社熊本銀行大矢野支店 支店長	矢田 健一郎	○
	天草信用金庫企業業務部・地域創生室 理事部長	渡邊 一成	○
その他	もりのともしび デザイナー	片島 雄一	○
	もりのともしび デザイナー	片島 荷風	○
	上天草市セカンドライフ支援ネットワーク 会長	木下 榮	○
	姫戸ひかり保育園 副園長、寺院僧侶	深谷 恵了	×
	社会福祉法人上天草市社会福祉協議会地域福祉課 主事	船元 亜梨沙	○
オブザーバー	熊本県総務部市町村課 参事	上野 誠喜	○
	熊本県天草広域本部 総務部長	一 喜美男	○